

## 2 適正規模・適正配置の基本的な考え方

### (1) 適正規模の基本的な考え方

木更津市立小中学校の適正規模の基準（望ましい学級数）及び必要な学級数の目安は、教育活動による効果、指導の充実、学校施設の現状及び効果的な活用を考慮し、次のように<sup>※2</sup>学校規模を定めます。

	適正規模の基準 (望ましい学級数)	必要な学級数の目安
小学校	12～18学級 (1学年2～3学級)	6学級以上 (1学年1学級以上)
中学校	9～18学級 (1学年3～6学級)	6学級以上 (1学年2学級以上)

#### 【理由】

小中学校ともに全ての学年において、学習内容に適した集団編成（少人数教育）やクラス替えが可能となり、より効果的な学校行事等諸活動が行える規模として、「適正規模の基準」（望ましい学級数）を定めました。

更に、木更津市の実態から、小学校においては複式学級の解消、中学校においては全学年でクラス替えを可能としたり、学級をこえた集団編成を可能としたりすること等を考慮した「必要な学級数の目安」を別に定めました。

### (2) 適正配置の基本的な考え方

学校の適正配置については、望ましい学級数を適正規模の基準としますが、上記の理由から「必要な学級数の目安」の確保を目指します。

そのためには、既存施設等の有効活用を基本として、地域と学校の関わりや小学校と中学校のつながりを重視し、<sup>※3</sup>通学距離や通学の安全性、学校における教職員の指導体制等の教育環境にも十分配慮し、取り組めます。

そこで、木更津市立小中学校の適正配置は、児童生徒数の推移を把握しながら通学区域の見直し、学校の新設・移転・増築、などにより進めていきますが、特に小学校における複式学級や中学校における学年単学級については、統合や小規模特認校への指定などにより、対応を図っていきます。

※2 国は学校規模について、学校教育法施行規則により小中学校とも「学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りではない。」としている。

※3 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担金等に関する法律施行令により「通学距離が、小学校にあってはおおむね4km以内、中学校にあってはおおむね6km以内であること。」としている。

### 3 学校規模別の分類

令和元年5月1日時点での学級数から、「適正規模を上回る学校」「適正規模校」「必要な学級数の目安を上回るが適正規模に足りない学校」「必要な学級数の目安を下回る学校」に分類します。

(令和元年5月1日現在)

規模	小学校	学級数	中学校	学級数	
適正規模を上回る学校 (19学級以上)	畑沢小学校	19			
	八幡台小学校	27			
	真舟小学校	30			
適正規模校 <小学校> (12～18学級) <中学校> (9～18学級)	木更津第一小学校	13	木更津第一中学校	10	
	木更津第二小学校	16	木更津第二中学校	15	
	南清小学校	16	木更津第三中学校	9	
	清見台小学校	18	太田中学校	17	
	祇園小学校	18	畑沢中学校	12	
	岩根小学校	12	波岡中学校	11	
	高柳小学校	13	清川中学校	11	
	請西小学校	15			
	必要な学級数の目安 を上回るが適正規模 に足りない学校 <小学校> (6～11学級) <中学校> (6～8学級)	東清小学校	6	岩根中学校	6
		西清小学校	10	岩根西中学校	6
波岡小学校		9			
鎌足小学校		6			
金田小学校		8			
中郷小学校		※4 6			
富来田小学校		6			
必要な学級数の目安 を下回る学校(5学級以下)			鎌足中学校	3	
			金田中学校	3	
			富来田中学校	4	

\*特別支援学級数を除く

※4 実際には、複式学級になるところだが、増置教員を活用し、複式学級化を防いでいる。

## 4 適正規模・適正配置に向けた取り組み

### (1) 学校規模別の取り組み

#### ① 適正規模を上回る学校に対する取り組みについて

##### ●畑沢小学校

児童数は減少傾向にあり、適正規模校になることが予測されます。将来的には波岡小学校との通学区域の変更等も考えられますが、当面現状維持とします。

##### ●八幡台小学校

児童数は大幅な減少傾向にありますが、適正規模校に近づくことが予測されます。将来的には波岡小学校との通学区域の変更等も考えられますが、当面現状維持とします。

##### ●真舟小学校

児童数はやや減少傾向にありますが、適正規模を上回る学校のまま推移していくことが予測されます。しかし、校舎増築により、教室数の不足が解消されたことから、現状維持とします。

#### ② 適正規模校に対する取り組みについて

##### ●木更津第一小学校

児童数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

##### ●木更津第二小学校

児童数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

##### ●南清小学校

児童数は大幅な減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

●清見台小学校

児童数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

●祇園小学校

児童数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

●岩根小学校

児童数はほぼ横ばいであり、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

●高柳小学校

児童数はほぼ横ばいであり、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

●請西小学校

請西千束台地区が通学区域にあるため、児童数が増加する可能性があります。適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、当面現状維持とします。

■木更津第一中学校

生徒数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

■木更津第二中学校

請西千束台地区が通学区域にあるため、生徒数が増加する可能性があります。適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、当面現状維持とします。

■木更津第三中学校

生徒数はやや増加傾向にあり、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

#### ■太田中学校

生徒数は大幅な増加傾向にあり、適正規模を上回る学校になると予測されますが、校舎増築により、教室数の確保が図れることから、当面現状維持とします。

#### ■畑沢中学校

生徒数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

#### ■波岡中学校

生徒数は増加傾向にあり、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

#### ■清川中学校

生徒数はやや減少傾向にありますが、適正規模校のまま推移していくことが予測されるため、現状維持とします。

### ③ 必要な学級数の目安を上回るが適正規模に足りない学校に対する取り組みについて

#### ●東清小学校

児童数は大幅な減少傾向にあり、複式学級となることが懸念されています。

そこで、児童数の推移を見ながら統合を検討します。

#### ●西清小学校

児童数は大幅な増加傾向にあり、適正規模校になると予測されるため、現状維持とします。

#### ●波岡小学校

児童数はほぼ横ばいであり、必要な学級数の目安を確保できると予測されます。立地環境や通学の安全性等に課題があるため、将来的には畑沢小学校及び八幡台小学校との通学区域の変更等も考えられますが、当面現状維持とします。

### ●鎌足小学校

児童数は増加傾向にあり、必要な学級数の目安を確保できると予測されますが、同一通学区域であり、生徒数の推移を注視する鎌足中学校と併せて、小規模特認校への指定を検討します。

### ●金田小学校

土地区画整理事業により、児童数は増加傾向にあり、校舎増築を予定しています。適正規模校になることが予測されるため、現状維持とします。

### ●中郷小学校

児童数はほぼ横ばいであり、必要な学級数の目安を確保できると予測されるため、現状維持とします。

### ●富来田小学校

児童数は減少傾向にありますが、必要な学級数の目安を確保できると予測されます。同一通学区域であり、生徒数の推移を注視する富来田中学校と併せて、小規模特認校への指定を検討します。

### ■岩根中学校

生徒数はほぼ横ばいであり、必要な学級数の目安を確保できると予測されるため、現状維持とします。

### ■岩根西中学校

生徒数はやや減少傾向にありますが、必要な学級数の目安を確保できると予測されるため、現状維持とします。

## ④ 必要な学級数の目安を下回る学校に対する取り組みについて

### ■鎌足中学校

生徒数はやや減少傾向にあり、必要な学級数の目安を確保できないと予測されます。

そのため、小規模特認校への指定を検討した上で当面現状維持とし、生徒数の推移を注視します。

■金田中学校

土地区画整理事業により、生徒数は大幅な増加傾向であるため、当面現状維持とします。

■富来田中学校

生徒数は大幅な減少傾向にあり、必要な学級数の目安を確保できないと予測されます。

そのため、小規模特認校への指定を検討した上で当面現状維持とし、生徒数の推移を注視します。

(2) 取り組みを実施した場合の学校規模別の分類(令和7年度推計値による)

○小学校

規模	小学校	学級数	今後の展望
適正規模を上回る学校 (19学級以上)	八幡台小学校	20	児童数の推移を注視 校舎を増築(済)
	真舟小学校	28	
適正規模校 (12～18学級)	木更津第一小学校	12	校舎を増築 児童数の推移を注視
	木更津第二小学校	13	
	西清小学校	12	
	南清小学校	12	
	清見台小学校	17	
	祇園小学校	16	
	岩根小学校	12	
	高柳小学校	13	
	金田小学校	16	
	畑沢小学校	17	
必要な学級数の目安を上回るが適正規模に足りない学校 (6～11学級)	波岡小学校	9	小規模特認校の指定
	鎌足小学校	6	
	中郷小学校	6	小規模特認校の指定 (小中一貫校)
	富来田小学校	6	
必要な学級数の目安を下回る学校 (5学級以下)			

## ○中学校

規模	中学校	学級数	今後の展望
適正規模を上回る学校 (19学級以上)	太田中学校	20	校舎を増築
適正規模校 (9～18学級)	木更津第一中学校 木更津第二中学校 木更津第三中学校 畑沢中学校 波岡中学校 清川中学校	9 16 10 10 15 9	
必要な学級数の目安を 上回るが適正規模に足 りない学校 (6～8学級)	岩根中学校 岩根西中学校	6 6	
必要な学級数の目安を 下回る学校 (5学級以下)	鎌足中学校 金田中学校 富来田中学校	3 5 3	小規模特認校の指定 生徒数の推移を注視 小規模特認校の指定 (小中一貫校)

## 5 学校予定地について

現在、本市は（仮称）大久保小学校予定地、（仮称）桜井小学校予定地の2箇所の学校予定地を保有しています。

このうち、（仮称）大久保小学校予定地については、教育財産として活用を検討します。

また、（仮称）桜井小学校予定地については、桜井運動場として活用することとします。



## 6 適正配置に向けた取り組みのスケジュール

適正配置に向けては、次のとおり緊急の課題がある学校から順次取り組みます。

- ① 東清小学校については、児童数の推移を見ながら統合を検討します。
- ② 鎌足中学校及び富来田中学校については、小規模特認校への指定を検討した上で、生徒数の推移を注視します。
- ③ 鎌足小学校及び富来田小学校については、小規模特認校への指定を検討します。
- ④ 上記①②③以外の学校については、今後の状況を見て対応を検討します。

## 7 基本方針の見直しについて

本基本方針は、方針内容に影響を及ぼすような社会情勢の変化や教育制度の変更、更に人口急増地域における社会増や小規模特認校の実施状況等を踏まえながら、毎年度点検し、必要に応じて修正や見直しを行います。